～ふくしまの歴史と文化財～

文字摺通信

第　74　号
2024年10月15日
発行:文字摺歴史文化社

二つの「政宗生誕の地」碑、本当はどっちで生まれたの？

右の石碑は米沢市上杉神社のお堀の橋を渡ってすぐ左側に立っているものです。上杉神社は旧米沢城。天文の乱後、伊達晴宗は居城を西山城から米沢城へ移しました。そして米沢城で政宗は産まれました。当然、政宗の生誕の地は、米沢城＝上杉神社と思っていました。しかし、今回、「稙宗ー晴宗ー輝宗ー政宗、伊達氏四代の足跡を巡る」企画のために改めて勉強をしていましたら、館山城跡の存在を知りました。それで９月初旬、下見のために米沢に行き、上杉社と館山城跡に行ってきました。すると、館山城跡の入口に右下の木柱が立っていました。ここにも「伊達政宗公誕生之地」とあります。また館山城保存会の方々の手による説明板がありました。長くなりますが全文引用します。

「館山城　館山城は、伊達晴宗が天文一七年（一五四八）に福島県桑折西山城から米沢に拠点を移した際の主城と考えられています。以後、伊達氏は、輝宗、政宗と引継ぎ、天正十九年（一五九一）に政宗が岩出山（岩手沢）城に移るまでの四三年間をここ米沢で過ごしました。本城は、大樽川と小樽川に挟まれた舌状丘陵部に築かれた全長三五〇メートルを有する山城で、大規模な土塁と掘切や縦堀によって、主郭（曲輪Ⅰ）、馬出（曲輪Ⅱ）、西曲輪（曲輪Ⅲ）を構成しています。遺存状況も良好で、大手門・物見台・虎口・枡形・搦手・帯曲輪等の遺構も明確に残っています。

城の周囲には、三個所の平坦地が置かれ、北舘からは石垣を配した遺構や家臣団の屋敷跡群、東舘からは庭園跡の一部や井戸跡、敷石遺構が発掘調査によって検出されています。また、南舘からは大規模な空間を整地していることが確認されています。このように館山城は、自然の地の利を活かした要害の城で、山城を本丸として直下に居舘を配置する構造は、後の岩出山城や仙台城にも取り入れられ、伊達氏山城の原点となったものと考えられます。」　航空写真（次ページ）で見ると、大樽川と小樽川に挟まれた山城で、その山（丘陵）も水力発電所に利用されるほどの急峻な山です。本丸への登り口に右の写真ようにスキーのストックが置いてあり、そばの立て札に「本丸

※編集後記兼**近況報告**兼私憤公憤

☆９月７日（土）念願の仙台定禅寺通りジャズフェスティバルに行ってきました。在来線で仙台へ、地下鉄南北線の勾当台公園駅で下車、階段を上ると聞こえてきました。まずはメイン会場へ、そしてその奥のステージではドラムスの音が。小学２年生から中学２年生までの９人のちびっ子ドラマーがステージ上にセットされた３台のドラムスを代わる代わるに叩くのです。すごいリズム感、すごいスティック捌き、百名を超える聴衆もノリノリで手拍子。呆気に取られて、圧巻でした。

今年で３３回目のジャズフェス。今年は３４ステージ×２日間、６００以上のバンドが参加。仙台の街は、ジャズ（ばかりでなくロックも）の音の洪水で、あちこちにテントが立ち、生ビールが飛ぶように売れていました。酒を辞めている私にとっては目の毒の光景ですが、皆さんのっていて、こちらも楽しくなります。

そこから定禅寺通り、ケヤキ並木に行くと、幅広い中央分離帯に臨時ステージが設置され、常連の方々は折畳み椅子を持参して、ずっと聴きいっていました。ここで暫し足を止め山形のバンド「GOTON5&REIKO3」を聴きました。ボーカルの三井礼子さんの声が魅力的でした。

定禅寺通りを歩いて行くとサックス主体のビッグバンドのステージがありました。スウィングの定番“Sing Sing Sing”に聴き手はリズムをとりながら笑顔になっていました。

歩き疲れ、聴き疲れ。それで和菓子カフェ“まめいち”に寄って、生菓子とお抹茶をいただきちょっと休憩。小さなカフェですが、美味しいです。素敵な店でした。

学生時代、定禅寺通りをゆっくり歩くことはなかったのですが、こうして歩いてみると素敵ですね。仙台の街が羨ましいです。来年は折畳み椅子を持参して、腰を落ち着けてじっくり味わおうと思います。

『～ふくしまの歴史と文化財～文字摺通信』第７４号　令和６年１０月１５日（火）発行
発行：文字摺歴史文化社　代表：守谷　早苗
[redacted]